

「調査研究実施報告書」書式(ご参考)

- 採用となった場合に、調査研究終了後に提出いただく「調査研究実施報告書」の書式は以下のとおりとなります。
- 報告書郵送とともに、データを財団メールアドレスに送信いただきます。
- 提出いただいた報告書は、今後、当財団ホームページに掲載する予定です。

全体をA4版5～10ページにまとめ
る。表題以外は10.5ポイント、1行
40字、行数は36行～40行。余白は
上25・下20・左右各30mm。

表題：調査研究報告内容を具体的にわかりやすく示す(対象、方法、場、内
容等)。キーワードを含める。文字サイズは16ポイント。

2025年 ○ 月 ○ 日

代表研究者 太陽太郎 ○○大学大学院○○研究科 教授
共同研究者 健康次郎 ××大学××学部××研究科 助教

【はじめに】

調査研究の動機、問題の背景、意義について文献検討を元に明確に記載する。文献検討(先行研究のレビュー)を適切に行い、検討結果を記載する。文献検討を行ったうえで、なぜこの調査研究を行う意義があるのかについて述べる。

【目的】

この調査研究で明らかにすることを明確に示す。研究目的は調査研究の根幹であり、研究目的に沿って方法、結果、考察、結論を記載することで、調査研究報告の一貫性が出る。

【方法】

構成項目：調査研究対象、調査研究期間、対象選定の方法、データ収集の方法、データ分析の方法、介入方法等。研究目的を明らかにするためにどのような方法をとったのか、具体的に記述する。

【倫理的配慮】

倫理的原則にもとづき調査研究を進める上で行った配慮(倫理審査委員会等の倫理審査を受けていること、研究対象者への研究説明と承諾の具体的方法、研究対象者に不利益や負担が生じないように配慮したポイント、研究対象者のプライバシーをどのように守るようにしたか、公表への許可を得ていること、利益相反の有無)について、具体的に記述する。

【結果】

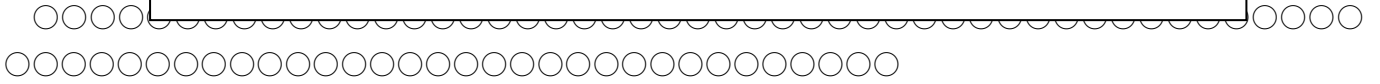
目的に従って、明らかになった事実をわかりやすく説明する。客観的事実のみを記述し、自分の考えや解釈は記述しない。必要に応じて見やすい図表を作成し、効果的に利用する。

【考察】

目的に従って、「結果」で書いた客観的事実を解釈する。調査研究で何が明らかになったのか、ポイントを絞って論述する。論理の飛躍がないか、矛盾がないか、得られた結果についての考察か。文献の引用を適切に行う。

【結論】

目的に従って、端的に結論を述べる。方法・結果・考察から導き出された結論か、飛躍や矛盾がないか。



【引用論文】

調査研究報告中に引用したすべての文献を記載する。文章そのものでなく内容を要約して引用した場合も引用文献に記載する。孫引きではなく、原典(引用・翻訳・改作などのもとになった書物)から引用する。



以上